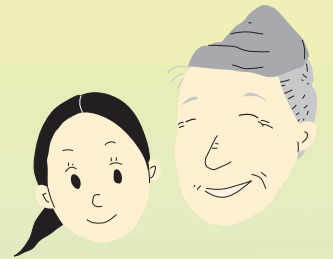


第26回



# 小さな展覧会

～平成 21・22 年度京都府内遺跡発掘調査成果速報～

小企画：古墳時代のムラと墓  
特設コーナー：上狛北遺跡

2011

会場：向日市文化資料館

期間：平成 23 年 8 月 13 日（土）  
～ 8 月 28 日（日）



主催：公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 後援：京都府教育委員会 協賛：向日市文化資料館

## 展覧会開催にあたって

当調査研究センターでは、平成 21・22 年度に 60 件の発掘調査を実施しました。今回の展示は、その中でも特に注目された調査 23 件を取り上げ、京都府内の各関係機関の発掘調査成果 24 件と合わせて、速報展示するものです。

この展覧会の目的は、この 2 年間に京都府内で行われました発掘調査の成果を出土遺物や写真などによって紹介し、一般の方々に埋蔵文化財への理解を深めていただくことにあります。そのためにも、よりわかりやすく、親しみやすい展示を心がけたつもりです。

第 26 回の展覧会では、小企画と特設コーナーを設けております。小企画では古墳時代の調査成果を中心に、「古墳時代のムラと墓」と題して古墳の写真や出土した副葬品等を展示しています。

特設コーナーは、昨年度恭仁宮と同時期の溝や建物が見つかり話題となった木津川市上狛北遺跡の展示です。ここでは木簡やその削り屑、墨書土器などの文字資料を中心に当時の食器類を展示しています。

今回の展覧会にご後援をいただいた京都府教育委員会をはじめ、協賛をいただいた向日市文化資料館、いろいろとご協力を賜った各関係機関に対し、深く感謝します。

2011 年 8 月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

理事長 上田正昭



私たちが  
ごあんない  
します。



### 凡 例

1. 本書は、平成 23 年 8 月 13 日～8 月 28 日に開催する第 26 回「小さな展覧会～平成 21・22 年度京都府内遺跡発掘調査成果速報～」の展示図録である。
2. 展示資料は、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターおよび各機関が主として平成 21・22 年度に発掘調査および整理作業を行った遺跡・遺物を対象とした。なお、展示資料は、都合により員数等が異なる場合がある。また、紙面の都合上、本図録には上掲 47 か所のすべての遺跡を掲載してはいない。
3. 展覧会期間中の 8 月 20 日（土）に第 119 回埋蔵文化財セミナーを開催する。
4. 資料調査・図録作成・展示資料借用に当たっては次の機関および個人から御指導・御協力をいただいた。  
（順不同・敬称略） 京都府教育委員会・宮津市教育委員会・福知山市教育委員会・南丹市教育委員会・（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館・向日市教育委員会・（財）向日市埋蔵文化財センター・長岡京市教育委員会・（財）長岡京市埋蔵文化財センター・大山崎町教育委員会・八幡市教育委員会・宇治市教育委員会・京田辺市教育委員会・精華町教育委員会・井手町教育委員会・木津川市教育委員会・同志社大学歴史資料館・石清水八幡宮・梶川敏夫・富島義幸・早川和子
5. 本図録は、京都府立山城郷土資料館の御協力を得て作成した。

# 小企画：古墳時代のムラと墓

## 古墳時代のムラ

古墳時代の人々は<sup>たてあなしきじゆうきよ</sup>竪穴式住居に住んでいました。屋内の中央には<sup>ろ</sup>炉があり、そこで調理等をしていたようですが、5世紀中頃以降に朝鮮半島の影響を受けて<sup>かまど</sup>竈が造られるようになります。、木津川市<sup>かみこまきた</sup>上狛北遺跡では竈付きの住居跡が見つかりました。



竈のある住居が見つかりました

<sup>かみこまきた</sup>【上狛北遺跡】 木津川市山城町上狛宝本・西浦代

当調査研究センター調査

古墳時代後期の竈を持つ竪穴式住居跡が8基見つかりました。この時期の集落が木津川の東岸で見つかるのは初めてです。竈は朝鮮半島の影響を受けたものであることから、<sup>とらいけい</sup>渡来系の人々が住んでいたムラではないかと考えられます。



竪穴式住居内の想像復原図

## 古墳時代のお墓

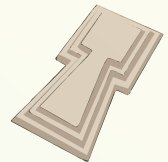
古墳とは土を高く盛りあげたお墓のことです。<sup>えんふん</sup>円墳や<sup>ほうふん</sup>方墳、<sup>ぜんぽうこうえんふん</sup>前方後円墳などいろいろな形があります。<sup>まいそう</sup>埋葬の仕方もさまざまで、<sup>ひつき</sup>棺を直接埋めたり、棺を粘土で覆ったり、<sup>おほ</sup>棺の周りに石を積み上げて部屋をつくったりします。



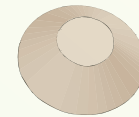
## お墓（墳丘）の形



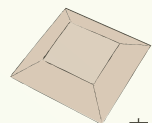
前方後円墳



前方後方墳

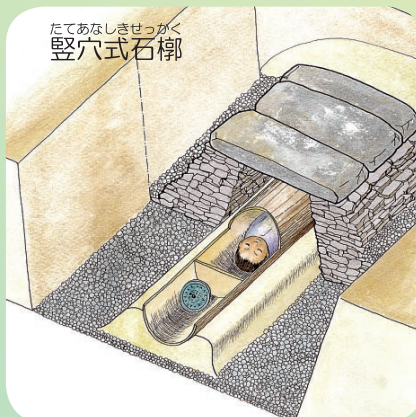
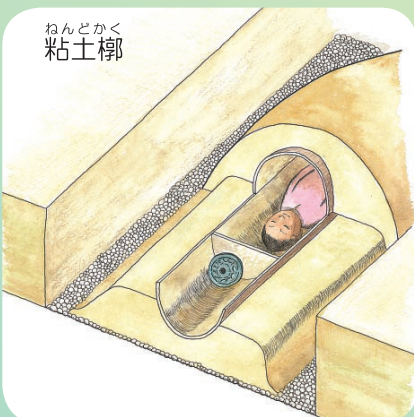


円墳



方墳

## いろいろな埋葬施設



## 前期・中期のお墓

古墳時代前期から中期は各地で大小様々な古墳が造られました。乙訓地域では、大型古墳で史跡整備のための調査が行われ、往時の姿が次第に明らかになってきています。



棺を覆っていた石室

【大内北古墳群】 京丹後市大宮町森本・三重

当調査研究センター調査

前期から中期にかけての直径約 25 m の円墳です。木棺を直接埋葬するものから堅穴式石槨へと変化していることが明らかになりました。



棺は粘土で覆われ朱がまかかれていました

【鞍岡山 3 号墳】 相楽郡精華町下狛大福寺・長芝

精華町教育委員会調査

前期末から中期初頭に造られた円墳です。埋葬施設の一つからは、玉類のほか様々な石製模造品が出土しました。船を線で描いた埴輪も注目されます。



くびれ部の石積み

【元稻荷古墳】 向日市向日町北山

(財)向日市埋蔵文化財センター調査

元稻荷古墳は前期の前方後方墳です。西方くびれ部で石積みの様子が確認されました。讃岐系の土器が出土し、話題になりました。



【恵解山古墳】 長岡京市勝竜寺

(財)長岡京市埋蔵文化財センター調査

恵解山古墳は中期の前方後円墳です。東側造り出し部分で基底石や礫敷が確認されました。礫敷では、恵解山古墳初のみずどりがたはにわ水鳥形埴輪が出土しました。

撮影：(財)京都市埋蔵文化財研究所

【鳥居前古墳】 乙訓郡大山崎町字円明寺小字鳥居前

大山崎町教育委員会調査

鳥居前古墳は中期の前方後円墳です。くびれ部東側で墳丘の最下段の葺石と埴輪が見つかりました。



最下段の葺石

## 後期のお墓

古墳時代後期になると新しい埋葬施設として横穴式石室よこあなしきせきしつが採用されるようになります。地域によっては、木棺を直接埋葬する伝統的な埋葬の仕方を続けるところや横穴式石室の影響を受けた、横穴おうけつという丘陵の斜面に穴を掘る新しいかたちのお墓を造る場所もあります。



玉類出土状況

### むかいの【向野古墳群】 福知山市正明寺向野

福知山市教育委員会調査

6世紀初頭から後半に造営された群集墳ぐんしゅうふんで、埋葬施設は木棺を直接埋葬したものです。隣の丘陵に立地する向野西古墳群では6世紀前半には横穴式石室が採用されています。



向野古墳群全景



塩谷南古墳全景

### しおたにみなみ【塩谷南古墳群】 船井郡京丹波町曾根

当調査研究センター調査

6世紀初頭に造られた直径15mの円墳です。2基の埋葬施設は木棺を直接埋葬したもので、第2埋葬施設の棺の脇には須恵器つぼの壺を取り囲むように高杯たかつきが並べられていました。



ベンガラを塗った須恵器の高杯



須恵器のほか鉄剣や刀子とうすが副葬されていました



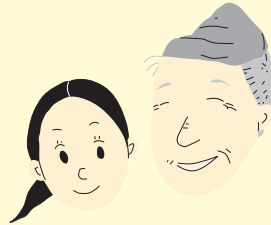
古墳の埋葬施設  
(上)と棺内から出  
土した須恵器 (左)

かきたに  
【柿谷古墳】 八幡市内里柿谷

当調査研究センター調査

一辺 12 m の方墳で、埋葬施設が 2 基見つかりました。埋葬施設の一つは木棺こくちの小口を粘土で押さえるもので、棺内には須恵器のほか鉄鏃てつそくや馬具、弓矢を入れる袋の金具などが副葬されていました。

横穴式石室は、  
朝鮮半島から伝わったん  
じゃよ。



大型の横穴式石室

にしやま  
【西山古墳】 宇治市小倉町西山

宇治市教育委員会調査

6 世紀後半の横穴式石室が見つかりました。石室の長さは 6.5m 以上、玄室げんしつの幅は 1.8m です。



見つかった古墳(上)  
と溝から出土した須  
恵器や土師器(右)

むくのき  
【椋ノ木遺跡】 相楽郡精華町下狛椋ノ木

当調査研究センター調査

木津川のすぐそばの低地で古墳が 3 基見つかりました。墳丘や埋葬施設は残っていませんでしたが、周溝からたくさんの土器が出土しました。

すずたに  
【鈴谷遺跡】 長岡京市奥海印寺鈴谷

当調査研究センター調査

あすか  
飛鳥時代の小型の横穴式石室です。乙訓地域では最も新しい石室です。周辺で家形埴輪いえがたはにわの破片が見つかり、近くに古い古墳があったこともわかりました。



石室と出土した  
土師器と須恵器



つばい  
【椿井遺跡】 木津川市山城町椿井御霊後

当調査研究センター調査

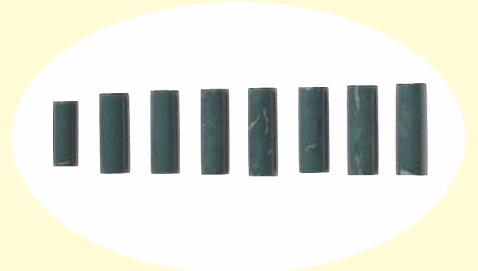
新たに古墳が2基見つかりました。いずれも埋葬施設は小規模な横穴式石室で、通路と入り口に段差があることから南山城地域に横穴式石室が導入され始めた頃の石室と考えられます。



小さな石室の床には管玉が散乱していました



古墳の溝から出土した須恵器



へきぎょく  
碧玉製管玉



丘陵の斜面に並んだ横穴群

おんなだに あらさかおうけつ  
【女谷・荒坂横穴群】 八幡市美濃山荒坂

当調査研究センター調査

丘陵の斜面で新たに8基の横穴が見つかりました。6世紀の終わり頃から7世紀にかけて造営されており、中には平安時代に再利用されている横穴もありました。



金銀の耳飾り



ずいうんそうらんはつかきょう  
瑞雲双鸞八花鏡

平安時代に副葬された鏡から横穴が再び利用されたことが分かりました



横穴出土須恵器

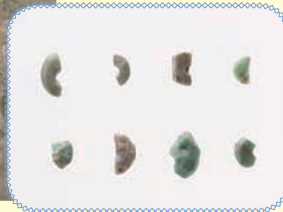
# 速報展示：縄文・弥生時代の遺跡



縄文時代の竖穴式住居跡

## 【伊賀寺遺跡】 長岡京市下海印寺下内田

当調査研究センター・(財)長岡京市埋蔵文化財センター調査  
 小泉川左岸の段丘縁辺上に位置する集落遺跡  
 です。今回の調査では、縄文時代中・後期の竖  
 穴式住居跡や土坑、墓が見つかりました。土器  
 や石器類のほか、碧玉製平玉の未  
 製品が出土しました。近くに玉作  
 りの作業場があったようです。



碧玉製平玉の未製品

## 【松山遺跡】 京丹後市大宮町森本

当調査研究センター調査

谷部の調査地では、土石流で埋没した弥生時代  
 後期の流路から弥生土器が、土石流から国産の  
 鏡が出土しました。また、丘陵裾部の調査地では、  
 古墳時代前期から中期にかけての高杯やミニチ  
 ュア土器などが出土しました。近くにマツリの  
 場があったと考えられます。



土石流で埋没した弥生時代後期の流路



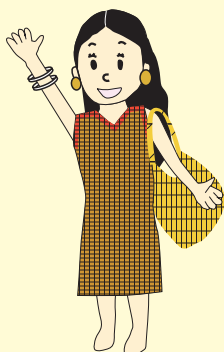
弥生時代の大きな溝が見つかりました

## 【野条遺跡】 南丹市八木町野条

当調査研究センター調査

野条遺跡の調査では、弥生時代後期の大小の溝  
 や奈良～平安時代の建物跡が見つかりました。

弥生時代の<sup>おおみぞ</sup>大溝（幅約4～5m、深さ約0.4m）  
 は、集落の南西の境界となる溝と考えられます。  
 溝からはマツリで使用された土器がまとまって  
 出土しました。



ヤリ先 (美濃山廃寺下層遺跡)



線刻された蓋 (松山遺跡)



丹後特有の器台 (松山遺跡)



# 奈良時代の遺跡

## 【恭仁宮跡】 木津川市加茂町例幣

京都府教育委員会調査

大極殿地区と朝堂院地区で調査を実施しました。

朝堂院地区の調査では、大極殿院の南面回廊に朝堂院の西辺区画施設が取り付く部分の柱穴が見つかりました。これにより恭仁宮の大極殿院の規模については、東西480尺（142m）、南北580尺（168m）という新たな復元案が想定されることになりました。



大極殿院の南面回廊と朝堂院西辺区画施設の柱穴



寺の南限の築地の溝が見つかりました

## 【馬場南遺跡】 木津川市木津糠田

木津川市教育委員会調査

神雄寺を取り囲む川の上流で、水源あたりに投げ入れられた多量の土師器皿が見つかりました。

また、本堂の西方で小さな塔跡が見つかりました。この塔跡は、本堂と同じく焼失していました。塔跡からは瓦や和同開珎などのお金のほか、鉄釘が見つかりました。



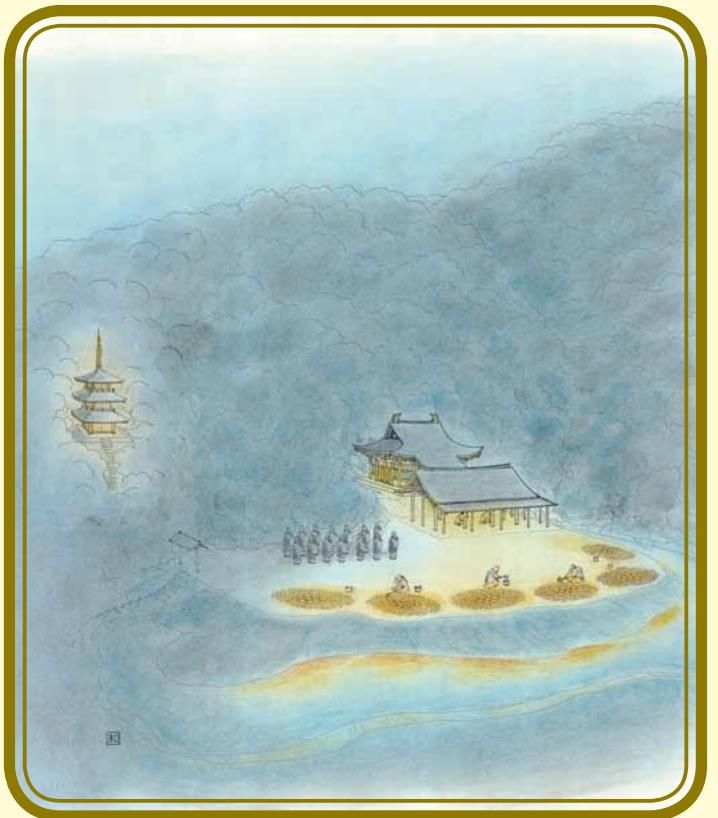
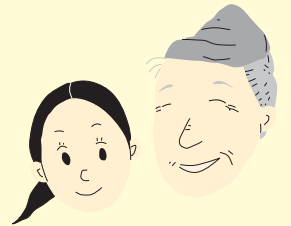
塔跡の全景

## 【井手寺跡】 綴喜郡井手町井手

井手町教育委員会調査

平成21年度に北西隅の築地の側溝が、平成22年度には南限築地の側溝が見つかり、寺域の規模がほぼ明らかになりました。南限築地の付近で、鞆の羽口や鉄滓などの工房の存在をうかがわせる遺物が出土しました。

焼けた塔跡の礎石  
が見つかったん  
だよ。



神雄寺のイメージ図：早川和子画

# 奈良・平安時代の遺跡

ながおかしゅう  
【長岡宮跡第481次】 向日市向日町南山

(財)向日市埋蔵文化財センター調査

回廊の北西隅を構成する石組みの溝と柱穴が見つかりました。この回廊は複廊ふくろうで、その規模や大極殿との位置関係から、これまで謎であった第1次内裏だいりに関する区画である可能性が考えられます。



複廊跡が見つかりました

はいがたかま  
【灰方窯跡】 京都市西京区灰方町

(財)京都市埋蔵文化財研究所調査

大原野窯跡群かまあとで新たに発見された9世紀後半の窯跡りよくうです。都に供給するための須恵器や緑釉陶器を焼いていました。今回の調査では2基の窯跡きじが見つかり、須恵器や緑釉陶器の素地が多量に出土しました。



中央奥が窯跡で手前には破損品が捨てられていました。

おおやまざきかわらがま  
【大山崎瓦窯跡】 乙訓郡大山崎町字大山崎

大山崎町教育委員会調査

史跡に指定されている大山崎瓦窯群の東側で新たに2基の窯跡が見つかりました。出土した瓦には、これまで見つかっていなかった大山崎瓦窯オリジナルのきまらのデザインの軒丸瓦のきまらがありました。



新たに窯跡が2基見つかりました

うじしがい  
【宇治市街遺跡】 宇治市宇治戸ノ内

宇治市教育委員会調査

平安時代後期の寝殿造の園池しんでんづくりや遣水えんち、廊やりみず、庭ろうなどが見つかりました。池の跡からは宴会に使ったと考えられる土師器のお皿がたくさん出土しました。



寝殿造の邸宅跡が見つかりました

へいあんきょう  
【平安京左京四条一坊六・十一町】

京都市中京区壬生坊城町

当調査研究センター調査

平安時代後期に藤原国明の邸宅があったとされる場所です。発見された井戸の中からは「保延六年（1140）返抄」と書かれた題箋軸木簡とともに中国製青磁水注や緑釉盤、白磁壺、常滑焼甕・壺などが出土しました。出土品には熱を受けたものが多く、この地が火災にあったことを物語っています。

題箋軸



平安時代後期の井戸

しもかいいんじ  
【下海印寺遺跡】

長岡京市下海印寺西条

当調査研究センター調査

平安時代後期の大きな堀跡や建物跡が見つかりました。堀は方形に巡り、その規模は50m四方になります。堀の内側に沿って塀があり、その内側には建物が2棟建てられていました。また、出入口にあたるには土橋があります。堀跡からは土師器や瓦器などが出土しました。



平安時代後期の屋敷跡

なんばの  
【難波野遺跡】 宮津市難波野池ノ上

宮津市教育委員会調査

難波野遺跡は天橋立の北側に位置する遺跡で、平安時代後期から鎌倉時代にはこの辺りに国府や籠神社に関する管理施設があったと推定されています。調査では平安時代後期の柱穴が複数見つかり、そのうちのひとつには土師器のお皿や黒色土器のお椀が重ねて埋めてありました。建物を取り壊した後に埋めたようです。



傘松公園から望む天橋立と難波野遺跡

しょうこくじ  
【相国寺旧境内】 京都市上京区相国寺門前町

同志社大学歴史資料館調査

足利義満が建立した相国寺創建期の水路や戦国時代の仏堂跡が見つかりました。水路は南北に100m以上続くもので、堤の上面には礫が敷いてありました。道路として使用されていたようです。水路の中からは、「鹿」と書かれた陶磁器が出土しており、塔頭である「鹿苑院」に関わる遺構であることが分かりました。仏堂の周辺からは足利氏が天皇家から下された桐紋の軒瓦も出土しています。



相国寺創建期の水路跡

# 中世・近世の遺跡



中山城跡全景

なかやまじょう  
【中山城跡】 舞鶴市中山

当調査研究センター調査

いくつもの堀切と急な斜面で守られた山城で、一色氏や細川氏の部下である沼田氏の居城だったと伝えられています。麓には由良川が流れ、調査では、戦国期の建物や柵のほか、<sup>さじき</sup>棧敷のような施設が見つかりました。<sup>よかい</sup>鎧金具の<sup>こはぜ</sup>靴や<sup>さやじり</sup>刀の鞘尻のほか、宴会に使われたと考えられる<sup>てんもくぢやわん</sup>天目茶碗や青磁、白磁、土師器のお皿が出土しました。



こはぜ  
靴

おやまたて  
【小山館跡】 南丹市園部町小山東町

南丹市教育委員会調査

遺跡は JR 園部駅の西側に位置する丘陵上にあります。規模は南北 70 m・東西 30 m で、<sup>どるい</sup>莊林氏の館跡と考えられています。調査では、大きな土塁と堀が見つかりました。土塁は幅 9 m・高さ 3.5 m です。土塁に付随する堀は、断面が逆台形<sup>ふずい</sup>で幅 8 m・深さ 3.5 m、堀底の幅は 2 m です。



大きな堀（中央）と土塁（右）



虎口部分の調査

かせやまじょう  
【鹿背山城跡】 木津川市鹿背山鹿曲田

木津川市教育委員会調査

この山城は、当初大和の興福寺が造ったものを室町時代に松永氏が改修したといわれています。

第 I 主郭<sup>しゅかく</sup>の調査では、土塁や<sup>やぐら</sup>櫓施設、<sup>こぐち</sup>虎口部の<sup>そせきだちもんあと</sup>礎石立門跡が見つかりました。また、主郭の西側では<sup>うねじょうたてぼり</sup>畝状<sup>よこぼり</sup>縦堀や横堀などの防御施設が見つっています。出土した遺物には、興福寺段階に奈良から持ってこられた土師器のお皿や<sup>はがま</sup>羽釜などがあります。

いわしみずはちまんぐうこくこじ  
【石清水八幡宮護国寺跡】 八幡市八幡高坊

八幡市教育委員会調査

江戸時代後期の本堂跡と密教法具を埋めた穴が見つかりました。穴の底に「<sup>りんぼう</sup>輪宝」を置き、その中央の穴に「<sup>どっこしよ</sup>独鈷杵」を突き立てて埋納されたもので、京都の裏鬼門にあたる石清水八幡宮で、国家の安全を祈るために埋められたのではないかと考えられています。



輪宝と独鈷杵を埋めた穴が 8 か所見つかりました

# 主な展示遺物



石器（木津川市椿井遺跡）  
後期旧石器・縄文時代（約3000～1万年前）



縄文土器（長岡京市伊賀寺遺跡）  
縄文時代後期（約3500年前）



弥生土器（南丹市野条遺跡）  
弥生時代後期（約1900年前）



磨製石器（京丹後市松山遺跡）  
弥生時代後期（約1900年前）



文字瓦（木津川市史跡高麗寺跡）  
奈良時代（約1300年前）



軒瓦（大山崎町大山崎瓦窯）  
平安時代（約1200年前）



硯（平安京跡）  
平安時代（約870年前）



常滑焼甕（平安京跡）  
平安時代（約870年前）



白磁合子蓋（大山崎町松田遺跡）  
鎌倉時代（約750年前）



銅製水注（大山崎町松田遺跡）  
鎌倉時代（約750年前）



桐紋軒丸瓦（相国寺旧境内）  
室町時代（約630年前）

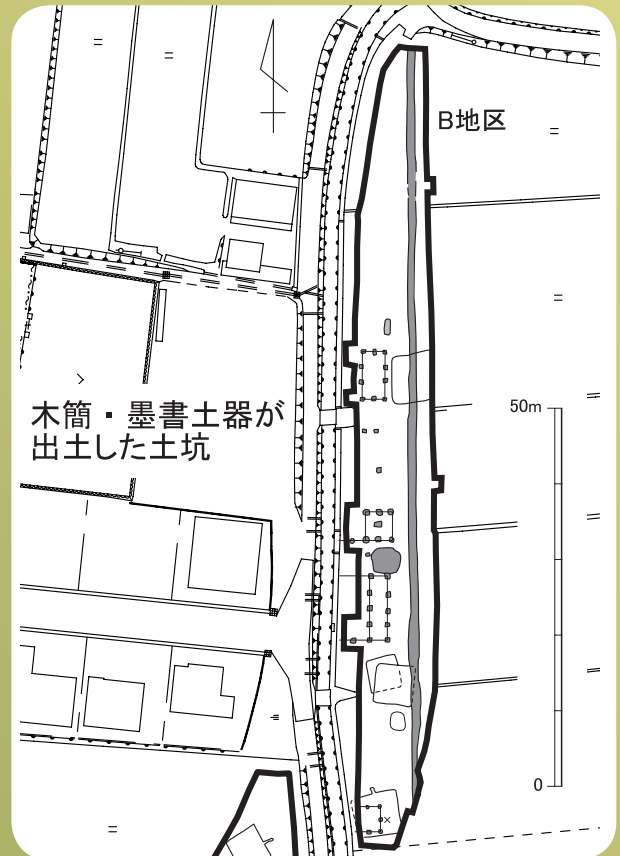


りんぼう とうこしよ  
輪宝と独鈷杵（八幡市石清水八幡宮）  
江戸時代（約200年前）

# 特設コーナー：上狛北遺跡



恭仁宮の時期の計画的な建物群と溝



遺構配置図

## 遺跡の概要

上狛北遺跡は、木津川市山城町上狛宝本・西浦代に位置します。

調査の結果、古墳時代、奈良時代、中世の遺構・遺物が見つかりました。このうち奈良時代の遺構・遺物について、注目すべき成果が得られました。奈良時代の遺構としては、総延長100mの直線的に延びる南北溝が1条、掘立柱建物跡が4棟、建物跡と重なって土坑（ゴミ捨て穴）が1基見つかりました。土坑からは、木簡や墨書土器などの文字資料ほか、大量の土器や瓦などが出土しました。土坑から出土した土器は、平城宮などの都城で出土する、都風の特徴をもつ土器です。

溝や建物跡については、出土した土器や瓦の年代から恭仁宮（740～744年）と同じ時期に営まれていると考えられることや、正方位を意識して計画的に配置されていることなどから、恭仁京（右京）に関わる遺構ではないかと考えられます。



土坑から出土した当時の食器類

土坑はこの恭仁京の造営に伴って生じたゴミや不要品を捨てるために掘られた穴と考えられます。また、土坑から出土した木簡や土器のなかには遠隔地からもたらされたものもあり、各地からいろいろな物資が集まってきていたと考えられます。

これが都風の土器で、土師器には模様があります。



## 文字資料の出土状況とその内容

上粕北遺跡で見つかった文字資料（木簡・墨書土器）はすべて土坑（ゴミ捨て穴）から出土しました。文字資料には、木簡3点、木簡の削り屑約40点、墨書土器約30点があります。

木簡1は、讚岐国鷓足郡（現在の香川県坂出市付近）の少領（郡司の役職の1つで、大領に次ぐ地位。地方の有力豪族が任命される例が多い）から上粕北遺跡にあった施設などに送られた文書木簡です。「少領」の下に文字の一部（おそらく少領であった人の名前）が残るものの、削り取られており、具体的な内容は不明です。木簡2は「海戸主海八目戸服部姉虫女米五斗」とあることから、米を納めた荷札木簡と考えられます。ただし、どこから納められたのかは不明です。このほか、「草萬荒蘇」や「長長」、「連連」と書かれた木簡や削り屑があり、字の練習をした習書木簡と考えられます。墨書土器は「代」と墨書されたものが半数以上を占めますが、意味は不明です。他に「咋女」「若女」などの女性の名前と思われるものがあります。



「讚岐国鷓足郡少領」□

木簡1



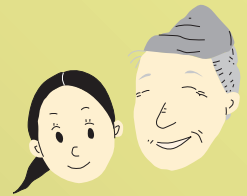
「海戸主海八目戸服部姉虫女米五斗」

木簡2

出土木簡

※遺物保護のため木簡と削り屑は期間限定で展示します。

何と書いてあるかわかるかな？



いろいろな「代」



木簡の削り屑



軒丸瓦と軒平瓦



1. 椿井遺跡
2. 伊賀寺遺跡
3. 山崎津跡
4. 美濃山廃寺・同下層遺跡
5. 野条遺跡
6. 松山遺跡
7. 南山遺跡
8. 元稻荷古墳
9. 鳥居前古墳
10. 恵解山古墳
11. 鞍岡山3号墳
12. 大内北古墳群
13. 塩谷南古墳群
14. 蔵垣内古墳群
15. 鈴谷遺跡
16. 女谷・荒坂横穴群
17. 柿谷古墳
18. 棕ノ木遺跡
19. 西山古墳
20. 向野古墳群

21. 松田遺跡
22. 上狛北遺跡
23. 井手寺跡
24. 馬場南遺跡
25. 史跡高麗寺跡
26. 恭仁宮跡
27. 長岡宮跡第481次
28. 長岡宮跡右京第985次
29. 大山崎瓦窯跡
30. 灰方窯跡
31. 平安京跡左京四条一坊六・十一町、壬生大路
32. 難波野遺跡
33. 法勝寺跡
34. 宇治市街遺跡
35. 下海印寺遺跡
36. 勝持寺旧境内
37. 小山館跡
38. 井脇城跡
39. 中山城跡
40. 鹿背山城跡
41. 相国寺旧境内
42. 園部城跡
43. 石清水八幡宮境内
44. 石清水八幡宮護国寺跡
45. 史跡教王護国寺
46. 清水寺
47. 萬福寺

展示遺跡位置図

## 第26回小さな展覧会 発行日 2011年8月13日

編集・発行 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40-3 TEL.075-933-3877 Fax.075-922-1189

ホームページアドレス <http://www.kyotofu-maibun.or.jp> 印刷 三星商事印刷株式会社

(この図録には再生紙を使用しています)

